

**令和6年度
第2回地域振興会議会長会議事概要**

日 時：令和7年3月12日（水） 16時00分～16時55分
場 所：白兔会館2階 ちどり

〔各地域振興会議〕 16名

会 長：山田会長(国府)、上山会長(福部)、竹田会長(河原)、西川会長(用瀬)
小谷会長(佐治)、河根会長(気高)、筒井副会長(鹿野)、
長谷川会長(青谷)

総合支所：山川国府支所長、米澤福部支所長、九鬼河原支所長、太田用瀬支所長
下田佐治支所長、中原気高支所長、岡本鹿野支所長、佐々木青谷支所長

〔本庁関係〕 2名

深澤市長、河口市民生活部長

〔事務局〕 3名

市民生活部地域振興課：山名課長、有田補佐、小野主任

【会議次第】

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 地域振興会議の総括及び地域未来プランの概要報告（発表）
- 4 その他
- 5 閉 会

議 事 概 要

1 開会

2 市長あいさつ

3 地域振興会議の総括及び地域未来プランの概要報告

＜国府地域振興会議 山田会長＞

地域未来プランの作成にあたり、昨年8月から4回の会議の中で議論してきた。

プランの目的・位置づけとして、令和7年度以降の国府地域の持続的発展に向けた取組みの方向性を示すものとして作成した。また、プラン作成前に、国府では「こくふ歴史観光まちづくりプラン」を2年かけて策定した。

未来プランでは、地域の現状と課題に向け、6本の柱を立てている。その中の「地域資源を活かした賑わいづくり」には「こくふ歴史観光まちづくりプラン」の内容も盛り込んでいる。

めざす将来像を『“住みたいまち・住んで良かったまち”「万葉の里こくふ」』とし、実現に向けて色々な施策を推進していきたい。

＜福部地域振興会議 上山会長＞

平成30年に鳥取大学地域学部へ委託し「福部町まちづくり構想」を策定、翌年には具体的な方向性を示す「福部町のまちづくり構想基本計画」を策定した。今回の地域未来プランはその内容を引き継いで作成をしている。

内容としては、福部中心部の中心地機能の拡充、塩見川等の治水対策の強化、防災・防犯対策の充実、町内の賑わいづくりについて記載している。

地域未来プランでは、「いつまでも住み続けられるまちにするために、いまできることをみんなではじめよう」という方針のもと、4本の柱、施策、細施策を立てている。

現状として人口減少や高齢化もあり、賑わいを作るということは難しいが、まちに対する思いを持った住民の行動が形になってきたと思う。「いつまでも住みつづけられるまち福部町」を目指し、今後も地域一丸となって、地域活性化を進めていきたいと思う。

＜河原地域振興会議 竹田会長＞

地域未来プランの策定を行う上で、2つの工業団地や道の駅、西郷地区の工芸の郷、アユのまち等、地域の産業をはじめとした地域資源の中のどこに重点を置くかということを中心に議論してきた。

様々な地域課題があるが、その中でもアユについては近年不漁が続いている。打開策を考えていきたい。

西郷地区における工芸の郷づくりでは毎年工芸まつりを行い、町外からも多くの方に来ていただいております。地域の賑わい、発展につながっている。

最近米価の高騰が騒がれるが、今までが安過ぎた。米価が上がり、農家の収入が安定しないと地方では暮らしていけない。

河原に住んで良かった、一度都会に出ても帰って来たいなと思えるまちづくりを行っていきたい。そのためには、今いる住民が「河原は良いまちだ。」と言えるまちにしないといけないと思っている。この未来像をみなで共有し、取組を進めていきたい。

＜用瀬地域振興会議 西川会長＞

目指す将来像を「人と自然と文化が奏でる 安らぎと賑わいを未来へつなぎ 誰もが安心して暮らせるまち もちがせ」と設定した。流しびなをはじめとする古くから伝わる文化を未来へ引継ぎ、ふるさとを大事にする思いを大切に、まちづくりを行いたい。

地域未来プランでは地域課題に対する取組を4本の柱にまとめた。安心して暮らし続けることのできる地域の維持、地場産業の活性化と雇用の確保、魅力ある地域づくり・人づくり、交流による活性化と移住定住の推進を軸に取り組んでいきたい。

地域振興会議では、総合支所の整備に伴う施設複合化や生活交通の確保について議論を行った。

生活交通の議論は、いきいき社まちづくり協議会による共助交通の運行開始につながった。

また、平成 30 年西日本豪雨で危険性が再認識された中橋について、審議・提案を行い、橋の撤去が実現し、その結果、令和 5 年の台風 7 号の際、越水もなく、住民の安全安心につながった。

令和 5 年 9 月末のトスク用瀬店閉店の際には、買い物環境確保に関する意見書を市長に提出した。

＜佐治地域振興会議 小谷会長＞

令和 5 年の台風 7 号から早いもので 1 年 5 か月が経とうとしている。発災当初からたくさんの方々にご支援、ご協力を賜った。感謝申し上げたい。

地域未来プランでは地域の課題と取組として、8 項目を掲げている。その中でも、買い物環境の確保として、令和 4 年にトスク佐治店が、令和 5 年にトスク用瀬店が閉店し、地域からスーパーが無くなったことを受け、トスク用瀬店の事業継承に向けて、周辺地域と協力して要望活動を行っていききたい。

産業振興では、脱炭素先行地域事業として、若葉台地区と佐治地区が選考され、地域資源を活用した小水力発電の整備や、新たな産業の創出に向けた取組をこれから行っていく。

また、優先的に取り組む事項の中で、防災・減災に関する取組として「災害に強い佐治町創り事業実行委員会」を地元の協力で立ち上げ、佐治町にある 26 の自治会集落全てで防災集会を開き、地域支え愛マップの作成を行い、災害に強い地域づくりを行っていく。

地域産業の担い手確保の取組では、特定地域づくり事業について、検討を行っていく。

佐治町は合併地域の中でも、人口減少が突出して進んでいる。これからも住民が住み慣れた地域に暮らし続けられるように、プランの実現を目指したい。

＜気高地域振興会議 河根会長＞

この 10 年、山陰道の開通や道の駅の建設等、地域の環境が大きく変化した。また、少子化の影響で地域の 4 小学校の統合が決まり、6 年後の新小学校の開校に向けて動き出した。

地域振興会議としては 4 回意見書の提出を行っている。平成 27 年度に企業誘致の推進と、西地域への企業誘致に関する意見書を西地域合同で提出した。また、平成 27 年度と平成 30 年度に浜村温泉館の早期の再開に向けて意見書を提出、最後に令和 6 年度に小学校新設統合の整備として、町内 4 つの小学校新設統合に係るまちづくり構想の意見書を提出した。

地域未来プランの作成にあたり、地域に暮らす人たちが、このまま住み続けたいと思える安全・安心で温かみのあるふるさと、そして都会に暮らす人たちが移り住みたいと思える魅力ある地域を目指し、将来像と 4 つの柱を定め、取り組むことを決めた。目指す将来像は『多様なライフスタイルで心豊かに暮らせる「気ぶん☆さい高、ときめきのまち」気高町』を掲げた。

気高町の特徴として、中心街である浜村地区はほとんど人口減少が見られないが、周辺地域では人口減少が進んでいる。地域内で様々な状況があっても創意工夫しながら、均衡ある発展を進めていきたいと思う。

＜鹿野地域振興会議 筒井副会長＞

鹿野町も人口減少や高齢化、地域の活力低下等、多くの課題を抱えている。地域未来プランはそれらの課題を乗り越え、地域が未来に向けて持続的に発展していくための道筋を示すものとして策定した。具体的には 4 つの柱に分けて計画を推進する。

まず、安心して暮らし続けることのできる地域の維持として、高齢者が住み慣れた地域で暮らしていけるよう、地域のつながりを強化し、健康寿命を延ばす取り組みを行う。また、防災・防犯対策を強化し、安心安全なまちづくりを進める。

2 つ目は地場産業の活性化と雇用の確保として、地域の特産品を活かして、新たな商品開発や販路拡大支援、企業との連携強化に取り組む。

3 つ目は魅力ある地域づくり・人づくりの推進として、鹿野城跡公園の再整備や町民音楽祭等、文化・芸術を活かした取組の中で、多世代が交流し、学び、活躍できる場の提供を行っていく。

4 つ目に交流による活性化と移住定住の推進として、鹿野町の魅力を都市部や若者世代に積極的に発信し、新たな移住者の獲得を目指す。併せて、ワーケーションを推進し、関係人口の拡大を目指す。

これらの取組を進め、未来を担う世代が希望を持てる地域社会を創出するため、町民一人一人の力を集結し、この地域未来プランの実現に向けて歩んでいきたいと思う。

＜青谷地域振興会議 長谷川会長＞

地域振興会議の総括として、2 点に分けて報告する。

まず、青谷上寺地遺跡の史跡公園整備と地域連携。史跡公園は一部が昨年 3 月にオープンし、来場者は昨年末までに約 3 万人となった。地域振興会議では、史跡公園の来場者に地域を周遊していただき、青谷の豊かな自然や伝統産業、農産物や海産物等の魅力に触れてもらうための方法について議論し、内外に発信を行った。具体的には、地元飲食店による遺跡にちなんだ弥生グルメメニューの PR や、来場者への地場産品の販売、史跡公園を活用したイベントの開催等、住民主体でおもてなしに取り組んだ。今後も史跡公園を活用した交流人口の拡大、賑わい創出を行っていききたい。

2 つ目が生活交通のあり方検討。以前よりバス路線の廃止について、危機感を持っており、議論を重ねていたが、令和 5 年にバス事業者撤退の決定を受け、今後の対応を「鳥取市青谷町地域生活交通協議会」で行われた議論の内容を共有しながら、検討を行った。令和 6 年度からは市が運行主体の「青谷バス」が運行開始されたが、利用者が増えるよう、今後も議論を重ねていく必要がある。

地域未来プランの策定に当たっては、定住人口の増進を最重要課題ととらえ、意見交換を行った。地域の課題に対し、市や地域住民等、様々な関係主体がより連携を強化し、目指す将来像である『いつまでも暮らしたい、住んでみたい、歴史に彩られた活気とにぎわいにあふれるまち 青谷町』の実現に向け、取り組んでいきたい。

＜市長による意見・感想＞

各地域の発表を聞かせていただき、目指す将来像として共通しているのが、そこに住んで良かった、これからも住み続けたいということだった。人口減少を食い止めるということは難しいことだが、住民同士が支え合って、暮らし続けていくことができるまちづくりが求められていると感じた。

地方創生の取組は 10 年前から始まり、本市も平成 27 年に鳥取市総合創生戦略、人口プランを作成し、取り組んできた。新たに国は地方創生 2. 0 を打ち出し、施策を始めていく。我々も新たな取り組みを考えていかなければならないと思っている。

発表をお聞きする中で、改めてこの 20 年で地域を取り巻く環境が大きく変化していると感じた。鳥取道・西道路の開通、南北線の整備についても進み始めた。これらの道路の開通により、利便性が高まり、鳥取市全体として活性化していく一つの契機となる。

本市は合併し、とても広い市になった分、地域資源が豊富だと、会長方の発表から改めて感じた。

国府町は「万葉の里こくふ」として、万葉の大茶会をはじめ、多くの取組がなされている。

また、福部町で行われている県事業の塩見川の治水対策については、本市も協力して取り組んでいきたいと思っている。また、鳥取大学との連携ということで、学生が地元をフィールドとして活躍できることはとても良いことだと思っている。

河原町の会長からは米価の高騰について、お話があった。今後も様々な制度を活用しながら、農家の方々が安心して生業を続けられるようにしていきたい。

用瀬町の中橋の撤去については、橋の撤去というものはなかなか住民の方の理解を得ることが難しいことがあるが、この度はご理解をいただき、スムーズに行うことができた。ご協力に感謝したい。

佐治町を始めとして大きな被害を受けた台風 7 号については、復旧を進めているところだがまだ以前の状況までは戻っていない。できるだけ早く元の状態に復旧させたいと考えている。

また、買い物環境の整備ということで、トスク用瀬店について、本市としても懸念しているところだが、事業者の関係もある。引き続きできる限りの支援は行っていきたいと考えている。

気高町の統合する小学校については、できれば令和 13 年度に開校させたいと考えている。

鹿野町の行っているワーケーションの取組は、鳥取市全体が適した地域の特性があると考えている。これからも利用者を増やしていきたいと思っている。

青谷町の青谷上寺地遺跡は全国的に見ても、学術的に価値が高い遺跡である。情報発信を引き続き行い、より多くの方に来場いただけるようにしていきたいと思う。

4 その他

なし。

5 閉会